

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 26 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320027

研究課題名(和文)内藤湖南のアジア観の形成と近代日中学術交流

研究課題名(英文)On Naito Konan's View of Asia and the academic interchange between Modern Japan and China

研究代表者

井上 克人(Inoue, Katsuhito)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：30184740

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,900,000円、(間接経費) 3,570,000円

研究成果の概要(和文)：3年にわたる研究の総決算として、2013年9月8日から10日にかけて南開大学日本研究院(中国・天津市)にて国際シンポジウム「近代以来中国与世界相互認知：『内藤湖南与中国』国際学術研究会」を開催した。これは南開大学との共催により、研究代表者・研究分担者および海外研究協力者(ジョシュア・A・フォーゲル・劉岳兵・劉雨珍・銭婉約・盧盛江)とそれ以外の研究者のべ32名が参集し、内藤湖南のアジア観の形成と近代日中学術交流について討議した。その討議の一部は、河合教育文化研究所編『教育論集』第11号(2014)に掲載された。

研究成果の概要(英文)：We held a international conference titled as "The Mutual Recognition between Modern China and the World:'Naito Konan and China'". This subject was hotly debated by the Representative and three associates, five foreign collaborators(Joshua A. Fogel, Liu Yuebing, Liu Yuzhen, Qian Wanyue, Lu shengji ang) and others. This international conference is recognized as a comprehensive survey of our three years research, our several papers were put into Bulletin of Kawai Institute for Culture and Education Vol.11(2014).

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：内藤湖南

1. 研究開始当初の背景

関西大学図書館は、内藤湖南・乾吉の碩学二代の蔵書・草稿などを収める「内藤文庫」を所蔵する。「内藤文庫」は特に、父・湖南(1866 - 1934)が、ジャーナリスト時代、明治期の中国問題の第一人者として活躍したこと、京都帝国大学時代、日本における近代的歴史学としてのアジア史研究の創始者として膨大かつ重要な業績を築いたことこの2点を集積する核心的な資料群であり、同文庫は関西大学図書館に収められた時から日本のみならず中国・アメリカの研究者の注視を受けてきており、その学術的価値は計り知れないほど高い。

しかしながら、これまで主に注視されてきたのは、内藤文庫のなかでも稿本『文史通義』・鈔本『貞観政要』など稀覯本の存在であり、それ以外の湖南の遺産についてはあまり周知されてこなかったと言ってよい。また、湖南の著作は全14巻の全集にまとめられ簡単に利用できる状況にあるが、逆にこの全集の刊行によってあたかも湖南の研究の総括がなされたかのように学术界に判断されているのが現状である。だが、内藤文庫にはさらに、書簡・手稿・手批など大量の未公開資料があり、それらは、湖南の中国理解・アジア史研究・宗教研究がどのような過程を経て形成され、いかに展開していったのかをさぐる極めて重要な資料である。例えば、研究分担者、陶徳民はすでに、湖南の時務論《支那論》がどのような意図で著されたのかを、その書簡の読解を通じて明らかにした論文を公表している。その一方で、多くの資料は未整理の状態にある。

また、内藤湖南の業績は、海外の研究者の注目するところであり、複数の視点からアプローチできる研究対象となっている。具体的に言えば、海外共同研究者として予定している、Joshua A. Fogel には、Politics of Sinology: The Case of Naito Konan, 1866-1934 (Harvard University Asia Center, 1984)と題する著書がある(邦訳『内藤湖南 ポリティックスとシノロジー』、井上裕正訳、平凡社、1989年)。さらに、海外共同研究者として予定している、銭婉約にも『内藤湖南研究』(中華書局、2004年7月)と題する著書がある。この事実は本研究の対象領域、内藤湖南が日本国内に限定されるものではないことを証明している。

このような経緯を経て、研究分担者、陶徳民は、2008年6月28日関西大学文化交渉学教育研究拠点において「内藤湖南への新しいアプローチ - 文化交渉学の視点から」と題する国際シンポジウムを開催して、これまでの内藤湖南研究の総括を行い、今後の研究の可

能性・展望をさぐった。同シンポジウムでは、海外共同研究者・Joshua A. Fogel が「『内藤湖南全集』に未収録の資料について」と題する研究発表を、海外共同研究者・銭婉約が「内藤湖南の中国訪書とその学術史的意義」と題する研究発表を、それぞれ行った。

このように、内藤湖南研究は現在、発展の極みにある一方、それと同時に、未開拓の部分のをこした、非常に発展性の豊富な研究領域であることも確認できる。

2. 研究の目的

本研究は、この関西大学図書館所蔵「内藤文庫」の書簡・手稿・手批など未公開資料の解読を中心にして、内藤湖南の中国理解・アジア史研究・宗教研究がどのような過程を経て形成され、いかに展開していったのかを、共同研究のネットワークを構築して究明しようとするものである。

本研究は以下の4つの研究領域を設定し研究を遂行する。

[1] 文化交渉史・比較文明論(陶徳民・海外共同研究者 Joshua A. Fogel)

[2] 日中人物交流史(西本昌弘・海外共同研究者 銭婉約)

[3] 近代日本思想史(井上克人・海外共同研究者 劉岳兵・劉雨珍)

[4] 東洋文献学(長谷部剛・海外共同研究者 盧盛江)

[1]については、明治期のアジア観の形成を解明し、最終的には「内藤湖南の欧米への目配り」にも論究したい。

[2]については、日本・朝鮮半島・中国の人的ネットワークを調査する。1910年に内藤湖南が「卑弥呼考」を発表して邪馬台国論争が始まってからすでに100年経っている。「内藤文庫」の書簡・手稿・手批などから、明治・大正期の関西文化圏の人的ネットワークのなかで邪馬台国論争がどのように展開されたかについても調査する。

[3]については、伝統宗教と思想・倫理に関する明治期の研究において、内藤湖南の文化的・学術的遺産がどのように裨益するのか、具体的に解明する。

[4]内藤湖南の東洋文献学上の業績を、関西大学所蔵の未公開資料の解読を通じて、新しい角度から明らかにする。特に、弘法大師空海が記した中国の文芸理論書『文鏡秘府論』について、その価値を内藤湖南が最も早い時期に指摘した、その過程を調査する。

本研究の第一義的な目的は単なる未公開資料の整理ではなく、上記の4つの領域について湖南の学問がどのようなプロセスで形成されたかを究明し、湖南を結節点とする人的・学術的ネットワークを復元することであ

る。未公開資料は膨大な量にのぼることから、研究は三年の期間を要する。

この作業を通じて、「文化遺産」湖南文庫の諸資料がネットワークのどこに位置するか改めて認定するのが、本研究の主たる目的であるが、この研究が、国際的な共同研究のネットワークを構築した上で、学際的・総合的に行われることに、大きな特色と独創性がある。

3. 研究の方法

平成 23 年度

根本資料である、関西大学図書館所蔵内藤文庫の書簡・手稿・手批などの調査・整理を行う。関西大学の専任教員である、陶徳民・井上克人・西本昌弘・長谷部剛が学内の資料について、以下の分野に従って研究対象として活用できる重要資料をピックアップして考証する。

- [1] 文化交渉史・比較文明論（陶徳民）
- [2] 日中人物交流史（西本昌弘）
- [3] 近代日本思想史（井上克人）
- [4] 東洋文献学（長谷部剛）

資料を写真撮影しデジタル画像として整理する。写真に基づいて釈読を進めながら、その過程でピックアップされる重要資料について、逐次考証を行い、データベース化に備える。一年目はまずこれが中心的な作業となる。

この作業の物理的な部分については、（主に関西大学文学研究科の）大学院生をアルバイトとして雇用し謝金を支払った上で、担当させる。大学院生にデジタル化作業、資料の釈読及び目録作成に携わらせ、文化財保護・文化史研究のスキルを身につけさせることにより、人材育成をも企図している。

平成 24 年度

平成 23 年度にデジタル・データベース化した資料について、目録・解題を作成する。そして、目録・解題を附したデジタル・データベースに基づいて、海外共同研究者を日本・関西大学に招聘し、内藤文庫関連資料閲覧の便宜を図ると同時に、以下の4つの研究領域において研究セミナーを開催する。

[1] 文化交渉史・比較文明論 スタッフ：陶徳民 海外共同研究者 Joshua A. Fogel（ヨーク大学教授[カナダ・トロント市]）

[2] 日中人物交流史 スタッフ：西本昌弘 海外共同研究者 錢婉約（北京語言大学人文学院教授[中華人民共和国北京市]）

[3] 近代日本思想史 スタッフ：井上克人 海外共同研究者 劉岳兵（南開大学日本研究院副教授[中華人民共和国天津市]）劉雨珍（南開大学日本研究院教授[中華人民共和国天津市]）

[4] 東洋文献学 スタッフ：長谷部剛 海外共同研究者 盧盛江（南開大学文学研究院教授[中華人民共和国天津市]）

[1]について、具体的には、研究分担者である陶徳民は『内藤湖南と清人書画 関西大学図書館内藤文庫所蔵品集』を刊行し（前述）内藤湖南がどのような清人書画を所蔵し、実作を鑑賞・研究していたかを明らかにした。その一方で、内藤湖南は「東洋文化史研究『北派の書論』『書論の変遷について』」を1936年に発表している（『内藤湖南全集』第八巻所収、筑摩書房、1969年）。本研究では、この両者をつなげるべく、清人から書画を贈られる、清人の書画を収集するという、直接的な文化交流のなかで、内藤湖南の中国文化史研究がどのように行われたのか、解明する。

さらに、新聞記者として近代東アジアの情勢分析を行ったことから始まる内藤湖南の業績は、京都大学教授となった後もやはり、日本・朝鮮半島・中国大陸の伝統文化およびこの三者の情勢分析に偏重している。しかしながら、中国大陸への植民地支配を進め、日本とも政治的・経済的・文化的に接触・衝突するようになった欧米の文化にも、内藤湖南は晩年には断片的に言及するようになっていた。陶徳民は、関西大学図書館所蔵内藤文庫の書簡・手稿・手批に、欧米の文明に言及するものをピックアップして考証し、海外共同研究者 Joshua A. Fogel とともに比較文明論的視点から、内藤湖南のアジア観と欧米観を統合させた研究を遂行する。

[2]について。1910年に内藤湖南が「卑弥呼考」を発表して邪馬台国論争が始まってからすでに100年経っている。「卑弥呼考」の発表によって、日本史学界にどのような反響が巻き起こったのか、それだけでなく、当時の新聞・雑誌などの資料を調査することによって、学会以外の知識人・一般人にどのような影響を及ぼしたのか、西本昌弘を中心に、歴史社会学的に究明する。そして、それを内藤湖南自身はどのように受け止めていたのか、「内藤文庫」の書簡などから解読するとともに、明治・大正期の関西文化圏の人的ネットワークのなかで邪馬台国論争がどのように展開されたかについても調査する。さらに加えて、内藤文庫中の日本史史料『令集解』『新撰姓氏録』『秘略府』などについて、内藤湖南はどのような経緯でこれらを購入し研究を進めたのかについても検討し、彼の日本史研究の軌跡を明確にする。

[3]について。仏教研究から始まった、内藤湖南の思想・宗教研究は、『日本文化史研究』に見られるように、日本の仏教・儒教・神道の各実態とその相互の関連性を古代から通時的に総覧しているのみならず、富永仲

基・山片蟠桃といった近世日本思想上の重要人物の発掘・紹介をも行い、その意味で誠に壮大なものがある。そして、三宅雪嶺との関わりなど、彼自らが明治期の思想状況をそのまま具現している人物であるとも言える内藤文庫中の資料の再整理を行うことによって、近代日本思想史における内藤湖南の位相を再確認する作業を遂行する。

その際には、海外共同研究者 劉岳兵・劉雨珍との共同研究というかたちを取る。『日本近代儒学研究』（商務印書館、2003年）・『明治儒学与近代日本』（上海古籍出版社、2005年）・『明治儒学与近代日本』（生活・読書・新知三聯書店、2007年）などの学術的著作がある、劉岳兵とともに、井上克人と劉雨珍が内藤文庫中の資料の再整理から得られた新情報・新知見を共有し、議論を深めることによって、近代日本思想史における内藤湖南の業績を再評価する。

[4]について。内藤湖南の東洋文献学上の業績を、関西大学所蔵の未公開資料の解読を通じて、新しい角度から明らかにする。それとともに、弘法大師空海が記した中国の文芸理論書『文鏡秘府論』についての研究を行う。『文鏡秘府論』の学術的価値を内藤湖南が最も早い時期に指摘した過程について、「内藤文庫」の書簡・手稿・手批など未公開資料の整理・解読を通じて調査する。内藤文庫の『文鏡秘府論』には、内藤湖南自身の手批が認められるが、これはまだ未解読である。デジタル画像化したこのテキストを、長谷部剛が、『文鏡秘府論彙校彙考』全4冊（中華書局、2006年）の校考者である盧盛江とともに解読し、『文鏡秘府論』研究に新たな展開を加える。

平成 25 年度

三年間の研究の総括を行う。詳しくは、次項4.「研究成果」を参照。

4. 研究成果

3年にわたる研究の総決算として、2013年9月8日から10日にかけて南開大学日本研究院（中国・天津市）にて国際シンポジウム「近代以来中国与世界相互認知：『内藤湖南与中国』国際学術研討会」を開催した。これは南開大学との共催により、研究代表者・研究分担者および海外研究協力者（ジョシュア・A・フォーゲル・劉岳兵・劉雨珍・銭婉約・盧盛江）とそれ以外の研究者のべ32名が参集し、内藤湖南のアジア観の形成と近代日中学术交流について討議した。その討議の一部は、河合教育文化研究所編『教育論集』第11号（2014）に掲載された。

研究成果の具体的な内容については、上述の通り、研究分野が多岐にわたるので、総括的な記述は難しい。ただ、研究代表者、井上

の研究分野（近代日本思想史）に限っても、内藤湖南の歴史認識がもつ特質は、諸事象に通底する歴史的な性格を的確に把握し、それらを特定の時代の全体状況の中で捉えるだけでなく、その時代が滔々と流れてやまぬ歴史の中でいかなる局面であるかについて、明確な見通しを持っていたことが明らかとなった。

また、本研究は、多彩な海外研究協力者をそろえたことも特色の一つであるが、海外研究協力者の研究成果が、以下の5「主な発表論文等」に示されることはない。したがって、この欄で、1点だけ海外研究協力者の研究成果を報告する。

盧盛江「内藤文庫蔵『文鏡秘府論』版本研究」、『第二届中国古典文献学国際学術研討会論文集』、台湾・東呉大学中国文学系、2012、83-95

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

長谷部剛、内藤湖南の唐代文獻研究簡介、唐代文学研究、中国唐代文学学会、査読有、2014、印刷中

井上克人、内藤湖南の歴史認識における哲学的背景、『研究論集』第11集、河合文化教育研究所、査読無、2014、71-91

陶徳民、王羲之の僕役 熊希齡の顧問 1913年内藤湖南の自己定位から見たその对中国姿勢の特質、研究論集、河合文化教育研究所、査読無、第11集、2014、111-125。

陶徳民、藤田高夫、内藤書簡研究の新しい展開可能性について - 満洲建国後の石原莞爾・羅振玉との協働を例に -、東西学術研究所紀要、査読無第47輯、2014、39-56

西本昌弘、空海請来不空・般若新訳経の書写と公認 一代一度仁王会の成立とも関係して、日本古代中世の仏教と東アジア、関西大学東西学術研究所、査読無、2014、127-151

陶徳民、内藤湖南晩年の東方回歸及其含意：從《新支那論》到東方文化聯盟、楊貞徳主編：《視域交會中的儒學：近代的發展》、臺北中央研究院、査読無、2013、59-84

井上克人、内藤湖南と近代の「知」、『関西大学文学論集』、関西大学文学部、査読無、第63巻第1号、2013、1-17

〔学会発表〕（計3件）

長谷部剛、内藤湖南の唐代文獻研究簡介、「近代における中国と世界の相互認知 内藤湖南と中国」国際学術会議、関西大学「内藤湖南研究プロジェクトチーム」(日本文科省科研費基盤研究(B)) & 中国天津市・南開大学世界近現代史研究中心・日本研究院・日語系共催、於：中国天津市・南開大学、2013年9月9日

井上克人、内藤湖南の歴史認識における哲学的背景、「近代における中国と世界の相互認知 内藤湖南と中国」国際学術会議、関西大学「内藤湖南研究プロジェクトチーム」(日本文科省科研費基盤研究(B)) & 中国天津市・南開大学世界近現代史研究中心・日本研究院・日語系共催、於：中国天津市・南開大学、2013年9月8日

西本昌弘、空海『文鏡秘府論』の撰述理由と成立年代「近代における中国と世界の相互認知 内藤湖南と中国」国際学術会議、関西大学「内藤湖南研究プロジェクトチーム」(日本文科省科研費基盤研究(B)) & 中国天津市・南開大学世界近現代史研究中心・日本研究院・日語系共催、於：中国天津市・南開大学、2013年9月8日

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

井上 克人 (INOUE, Katsuhito)

関西大学・文学部・教授
研究者番号：30184740

(2)研究分担者
陶 徳民 (TOU, Tokumin)
関西大学・文学部・教授
研究者番号：40288791

西本 昌弘 (NISHIMOTO, Masahiro)
関西大学・文学部・教授
研究者番号：00192691

長谷部 剛 (HASEBE, Tsuyoshi)
関西大学・文学部・教授
研究者番号：50308152

(3)連携研究者

()

研究者番号：